

## 2018年中国人民大学図書館訪問報告

武部 真子

(学術情報課図書情報係)

山下 泰史

(学術情報課古典資料係)

一橋大学学術・図書部

### 1. はじめに

2012年11月7日に一橋大学附属図書館(以下「当館」という)及び中国人民大学図書館は図書館交流に関する協定を結び、図書館の利用、刊行物の交換、情報交換、図書館職員の交流、その他図書館間交流を行うことで合意している<sup>1)</sup>。本協定締結後、2013年に当館職員が中国人民大学図書館を訪問したが、その後主だった職員交流はない。

2017年末に、一橋大学中国交流センター(以下「中国交流センター」という)青木人志センター長から、当館に中国人民大学図書館との職員交流について打診があり、2018年3月に当館から2名の中国人民大学図書館への訪問が可能となった。

本稿では、中国人民大学図書館に訪問した際の職員交流の様子を報告する。

### 2. 概要

#### 2.1 中国人民大学図書館との交流について

今回の職員交流の報告を行う前に、まず、当館と中国人民大学図書館のこれまでの交流の状況を紹介する。

2012年3月当館から館長及び職員4名が図書館間交流の可能性を確認する打合せ及び中国の図書館活動に関する事前調査を行うために中国人民大学図書館を訪問した。同年11月には、中国人民大学図書館から館長を初めとする5名が図書館交流協定の調印のために来日している。交流協定の締結に至る経緯や事前調査の詳細は、研究開発室年報第1号に掲載の記事「一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との交流協定の締結及び事前訪問調査報告」を参照されたい<sup>2)</sup>。

翌2013年3月に当館職員3名が両大学所属の教職員・学生の相互図書館利用にかかる

詳細な運用方法の協議のために中国人民大学図書館を訪問し、同年10月から相互利用サービスの提供を開始した<sup>3)</sup>。

その後は、相互利用にかかる事務的なメールのやりとり等を行っていたが、今回の訪問に至るまで直接の職員交流は行っていない。

## 2.2 中国人民大学図書館の概要

中国人民大学図書館は、1950年に正式に設立された。蔵書館と新館の2つの建物からなり、延べ面積は5.6万平米を超える。主として人文社会科学の図書とデータベースを併せ持っており、蔵書数は約350万冊にもなる。蔵書の中には、1911年以前に刊行された古書約40万冊、1911年から1949年の中華民国時代の資料約10万冊、香港や台湾の資料約3万冊が含まれており、これらは新館にある閉架式の古籍特蔵館に保存されている。また、中国人民大学図書館は、中国人民大学の教員や卒業生、大学院生の論文等約8万冊からなる中国人民大学文庫（以下「人大文庫」という）を1987年に創設した。データベースは約400種契約しており、人文、経済、社会、法政、理工の5つの分野をカバーしている。図書館組織としては、閲覧に対応する部門や資料収集を行う部門、前述の人大文庫を手当てる部門など、おおよそ11部門からなり、約130人の職員が各所に配属されている<sup>4)</sup>。

## 2.3 訪問の概要

前述の通り、交流がしばらく途絶えていたため、当館職員が中国人民大学図書館を訪れ、情報交換等により交流を深めることを目的とし、以下の通り訪問した。

訪問日：2018年3月6日（火）

訪問場所：中国人民大学図書館（北京市海淀区中关村大街59号）

訪問者：武部真子（学術情報課雑誌情報係長）、山下泰史（学術情報課古典資料係）

（訪問者の所属・職名は訪問当時のもの。）

以下、交流の様子を交流中に得られた情報とともに報告する。

## 3. 交流内容

中国人民大学図書館内で図書館職員による交流を行った。交流内容は大きく

- ・中国人民大学図書館副館長及び担当者との会談
- ・担当者間交流

・中国人民大学図書館見学

の3部からなる。

以下では、各部の様子、内容を記す。

### 3.1 中国人民大学図書館副館長及び担当者との会談（14:00-15:00）

出席者

一橋大学：青木（中国交流センター長）、武部、山下、中山（国際課、通訳）、買申（通訳）

中国人民大学：宋（副館長）、程（副館長）、儲、阿童木（通訳）、胡、孟、单

会談では、まず宋副館長より歓迎の言葉、出席者の紹介があり、宋副館長を始め数人は過去に本学を訪問していることの説明があった。青木中国交流センター長より受入への感謝の言葉が伝えられた。

その後、当館から事前に送付していた質問事項に基づき、中国における西洋古典資料の修復・保存環境、電子リソース、学生協働、他の協定校との交流状況について質疑応答が行われた。

#### 3.1.1 中国における西洋古典資料の修復・保存環境について

当館では文部科学省共通政策課題「文化的・学術的な資料等の保存等」（平成28年度～平成30年度）事業として「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」を継続している（訪問当時）。ネットワーク形成を今後進めて行くにあたり、参考になる事例等を伺うため、中国人民大学及び中国全土における西洋古典資料の保存・修復に係る状況を伺った。

##### 3.1.1.1 西洋古典資料の収蔵状況

まず、中国人民大学図書館における西洋古典資料<sup>5)</sup>の所蔵状況を伺った。中国人民大学図書館では、宋、明、清代などの漢籍を数多く収集しているが、西洋古典資料は約20,000冊と所蔵が少ないとのことだった。そのうち、17世紀～18世紀に出版されたものは少なく、多くは19世紀に出版された資料であるとのことだった。他大学と比較しても西洋古典資料の所蔵数は少ないほうであり、精華大学や北京大学は比較的多く所蔵しているとの回答を得た。

### 3.1.1.2 西洋古典資料のデジタル化

上述のように西洋古典資料の収集には力点を置いていないため、デジタル化についても積極的には進めていないとのことだった。その代わり、中国の大学図書館が中心となり、所蔵機関がデジタル化資料を提供することで協力し、各機関のデジタル化資料を参加機関全体で共有する国際的な資料デジタル化プロジェクトである CADAL (China Academic Digital Associative Library) <sup>6)</sup>に参加しており、CADAL では、西洋古典資料もデジタル化されているとのことだった <sup>7)</sup>。

### 3.1.1.3 西洋古典資料の修復

西洋古典資料の修復について伺ったが、読めないほどに破損した資料は保存していないため、破損した資料の修復はあまり行っていないとのことだった。

### 3.1.1.4 保存修復ネットワーク

前述「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の核となる、保存に関するネットワーク形成の参考とすべく、中国では漢籍の保存に関するネットワークのようなものがあるか伺ったが、特に存在しないとのことだった。

併せて、保存修復の講習会を行っているかどうかを伺った。中国国家図書館には古籍館という施設があり、研修事業も行っているとのこと。また、中国国家図書館だけでなく、規模の大きい公共図書館にも保存修復を行う部署がある。

復旦大学には中華古籍保護研究院 <sup>8)</sup> という古典籍の保護に関する研究教育機関がある。当機関が行う研修プログラムに、中国人民大学だけでなく、東南アジアやその他様々な地域の図書館職員が参加し、技術を学んだり研修を受けたりしている。

中国以外の国では、アメリカのコネル大学が修復・保存に関する研修プログラムを提供しており、中国人民大学だけでなく、北京大学や精華大学などの主だった大学の職員も研修に参加している。この研修には、西洋古典籍に関するプログラムも存在するとのことであった。

中国人民大学図書館では、書籍の修復・保存の技術を持っている人は少ないため、人材の養成は必要と考えているとのことであった。

### 3.1.1.5 貴重資料の保存方法

当館の貴重資料室には和装本、漢籍などが収められている。貴重資料室管理に資するため、中国人民大学ではどのような点に注意を払っているか伺った。

俎上に載ったのは、温湿度管理についてである。中国は土地が広大で、北側と南側で環境が大きく異なる<sup>9)</sup>。中国の北側では、樟木<sup>しょうぼく</sup>で棚を作り、虫がわからないよう温湿度管理をしている。南側は湿度が高く、通常のエアコンによる湿度管理だけでなく、湿気を外に出すための管理方法が必要であるとのことであった。このように、温湿度管理を特に大事にしているとのことであった。

### 3.1.2 電子リソースについて

中国人民大学図書館を中心とする中国における電子リソースの導入状況は、2012年の訪問の際にも調査を行っている<sup>10)</sup>が、訪問後約6年が経過していることから、現在の状況や利用促進の取り組みなどを伺い、次のような説明があった。

#### 3.1.2.1 電子リソースの導入状況

中国人民大学図書館でも、電子リソースにかかる経費は上昇している。かつては紙媒体の書籍と電子リソースの購入比率は50対50であったが、現在は40対60程度になっている。しかし、海外製品は、DRAA (Digital Resource Acquisition Alliance of Chinese Academic Libraries: 高校图书馆数字资源采购联盟)<sup>11)</sup>というコンソーシアムで交渉してまとめて購入することにより、価格上昇抑制が図られているため、予算的には日本ほど厳しい状況にはなく、現在でもトライアル等を実施した上で、毎年新規に10数個データベースの契約を行っているとのことだった。

バックファイルについては、各大学のサーバーに保存して利用できるような契約を行っている。ナショナルサイトライセンスで購入しているものもあるが、各大学で購入しているものも多くあり、各大学でそれぞれに専門分野に沿うデータベース・バックファイルを整備している。

#### 3.1.2.2 電子リソースの利用促進の取り組み

電子リソースの利用促進にあたっては、ネットワーク上で紹介もしているが、学期が始まる時使用方法や活用方法のガイダンスを行っている。ガイダンスの広報は紙のパンフ

レットを作成、配布しているほか、「WeChat/微信」<sup>12)</sup>という SNS サービス内に図書館専用の掲示板を用意し宣伝している。

9月の新学期にも学部生、院生向けのガイダンスを行っている。毎学期20講座程度開催している。ガイダンスの内容は、図書館で自主的にプログラムを組んでおり、専門性の高いもの（法律・統計など）にも対応したプログラムも実施している。

### 3.1.3 学生協働について

本学では、第3期中期計画に於いて、学生の主体的学修活動を促進するため、学生協働を進めていくことを定めている。この目標を達成するための一助とするため、中国人民大学図書館では学生協働を行っているか、行っているのであればどのような活動をしているか伺った。

中国人民大学図書館においても、当館と同様に学生アルバイトを雇用し、一部業務をお願いしているとのことであった。加えて、インターネットを介して本の紹介を行う『読書クラブ』という活動を学生と一緒にしているとのことだった。

### 3.1.4 他の協定校との交流状況について

当館同様協定を締結しているほかの大学とはどのような交流を行っているかを伺った。当館以外に協定を結んでいるのは、アメリカのミネソタ大学とドイツのミュンヘン工科大学のみで、交流の内容は、資源の共有（文献複写）等当館と同じ状況で職員交流は活発には行われていないようであった。

以上、質疑応答を行った後、記念品の贈呈と記念撮影を行った。

## 3.2 担当者間交流

中国人民大学図書館副館長等が離席されたのち、担当者間交流を引き続きその場で行った。担当者間交流は、中国人民大学図書館の主に日本語文献を扱う職員から寄せられた質問に当館職員が回答する形で行った。

出席者

一橋大学：青木（中国交流センター長）、武部、山下、中山（国際課、通訳）、買申（通訳）

中国人民大学：胡、阿童木

まず尋ねられたのは、CiNiiはデータベースとして購入することはできるのかという質問であった。中国人民大学図書館では日本の文献の需要が高まっているが、その入手に苦労しているようであり、CiNiiに掲載されている文献を電子的に入手できるなら入手したいという意図であった。CiNiiは無料でアクセスし、オープンアクセスなどにより本文を閲覧できるものは閲覧できるが、データベースとして購入するといったものではないことを説明すると、では、CiNiiに掲載されている文献はILLで依頼できるのか、といった質問にシフトした。その際、日本の大学間のILLの仕組みについても質問が寄せられた。

また、中国人民大学と一橋大学はともに社会科学系等の大学であり、需要が似通っていると思われるので、一橋大学で契約している使いやすいデータベースの紹介を求められた。特に日本の雑誌論文について包括的に本文が閲覧できるデータベースの紹介を希望していたが、日本では冊子でのみ発行されている雑誌が多く存在し、有料でもそのようなデータベースが存在しないことを説明しなければならなかった。

こちらからは、中国の雑誌論文データベースであるCNKI、Wanfang Data、CQVIPのうち契約するならばどのデータベースがよいかを尋ねたところ、どれがよいかは一概には言えないが3つのデータベースを契約すれば、中国で発行されている雑誌はほぼすべて利用できるようになるとのことだった。また、CNKIに登録されている雑誌は、中国人民大学図書館でほぼ所蔵しているもので、当館との協定によりILLで対応可能とのことだった。

担当者交流会の時間は20分程度と非常に短いものであったが、中国人民大学内での日本の文献に対する需要の高さや日本の文献入手に苦労していることもわかり、有意義な時間であった。今後、双方の持つ資源を何らかの形で共有できるよう交流を深めていきたいと感じた。また、日本の文献の電子化の推進は、海外の研究者からの期待も大きいことがわかった。

### 3.3 図書館見学 (16:10-16:30)

出席者

一橋大学：青木（中国交流センター長）、武部、山下、中山（国際課、通訳）、買申（通訳）

中国人民大学：儲、阿童木（通訳）

上記の出席者にて、図書館見学を行った。コーナーごとに担当の方に案内をしていただいた。以下には特筆すべき点を挙げる。

まず、2.2.でも触れた、人大文庫区をご案内いただいた。著名な教授になると個人ごとのコーナーが設けられており、ガラス張り鍵付きの戸棚に収められている。メダルなど記念品も含めて展示されている戸棚もあった。

中国人民大学図書館では、2010年に新館が竣工してから、セルフコピー機や自動貸出機の導入、閲覧席や学習室のウェブ予約サービスなど、近代的なサービスの導入を行っている。新館には1階に6台、2階に4台、計10台の自動貸出機が設置されており、学生は自分で貸出を行うことができるとのことであった。閲覧席予約システムは直接拝見しなかったが、閲覧室はいつも満席であるとのことであった。見学当日も、席を確保できなかった学生が新聞閲覧机などで立って勉強する姿が見られた。

また、2.2.でも触れたとおり、貴重な資料の一部は閉架式になっているが、四庫全書などの復刻版は、開架コーナーで利用できるようになっている。

マルチメディアルームは、90席あるシアタールームのような部屋で、映画上映会なども行っている。視聴覚室も3室あり、10人程度のグループで利用することができる。



写真1：人大文庫。鍵付きの戸棚に資料が収められている。



写真2：自動貸出機。





写真3：マルチメディアルーム。

#### 4. おわりに

中国人民大学図書館と当館との協定が締結されてから早くも6年以上が経過した。残念ながら、これまで定期的な交流は行ってこなかったが、訪問時の意見交換において互いの活動概要を知り、かつ、双方共通の課題があると実感した。

今回の交流を契機として、今後両館の職員同士の交流による情報・意見交換を継続的にを行い、双方の図書館活動の発展に活かしていきたい。

今回の訪問は、中国交流センターの経費的な面も含めたご支援のもと実現しました。青木人志中国交流センター代表を初め、国際課中山リカ氏、中国交流センター現地スタッフ買申氏には、先方との連絡調整や通訳など多大なるご尽力をいただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

---

1) 一橋大学附属図書館. “一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との間における図書館交流に関する協定書”. 一橋大学附属図書館.

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/about/partner/kyotei/hit-ruc.pdf>, (参照 2019-02-07).

2) 小陳 左和子,大城 綾子,柴田 育子,石山 夕記,菅原 光. 一橋大学附属図書館と中国人民大学図書館との交流協定の締結及び事前訪問調査報告. 一橋大学附属図書館研究開発室年報. 2013, no. 1, p.128-141. <http://doi.org/10.15057/25653>, (参照 2019-02-07).

3) “中国人民大学図書館との相互利用を開始します”. 一橋大学附属図書館.

[https://www.lib.hit-u.ac.jp/news\\_detail/n/20131007\\_1/](https://www.lib.hit-u.ac.jp/news_detail/n/20131007_1/),(参照 2019-02-07)

- 
- 4) 中国人民大学図書館. 图书馆简介. <http://www.lib.ruc.edu.cn/info/72800.jspx>, (参照 2019-02-07).
  - 5) ここでは 1850 年以前の洋装本を想定している。
  - 6) 湯野 基生. “中国の資料デジタル化プロジェクト・CADAL の利用と参加について：アジア情報室通報 第 12 巻第 1 号”. リサーチ・ナビ.  
<https://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/bulletin12-1-1.php>, (参照 2019-02-07).
  - 7) 中国語以外で書かれた資料は約 30 万冊がデータベースに登録されている。  
“资源介绍”. CADAL. <http://www.cadal.cn/xmjj/zyjs.htm>, (参照 2019-02-07).
  - 8) 复旦大学図書館、古籍整理研究所、歴史地理研究所、文博学系、出土文献与古文字研究中心にまたがる組織として、2014 年 11 月 30 日に発足した。古籍の保護に係る人材の育成や保護技術に関する研究、書誌の研究に係る機関などを設置している。  
王晓易. “复旦大学:杨玉良现为复旦中华古籍保护研究院院长”. 網易新聞.  
<http://news.163.com/14/1106/16/AACMQ0DM00014SEH.html>, (参照 2019-02-07).
  - 9) 中国人民大学は中国の北側に位置する。
  - 10) 前掲 2) の「3.3.3. 電子的資料の導入状況」に 2012 年訪問時の中国人民大学、北京大学、精華大学の各図書館の導入状況が報告されている。
  - 11) “高校图书馆数字资源采购联盟 (DRAA) 简介”. DRAA.  
<http://www.libconsortia.edu.cn/Space/view.action?pagecode=gylm>, (参照 2019-02-07).  
なお、DRAA については、前掲 2) の「3.3.4. 図書館コンソーシアム形成の状況」を参照されたい。
  - 12) 日本で広く知られている LINE のようなメッセージングアプリ。チャットや通話ができる。  
“「WeChat」を App Store で”. APP Store プレビュー.  
<https://itunes.apple.com/jp/app/wechat/id414478124?mt=8>, (参照 2019-02-07).

[Report]

*Report on 2018 Renmin University of China Library visit*

Takebe, Shinko.

Acquisition Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,  
Hitotsubashi University

Yamashita, Yoshifumi

Historical Literatures Section, Library Affairs Division, Department of Libraries  
and Information, Hitotsubashi University